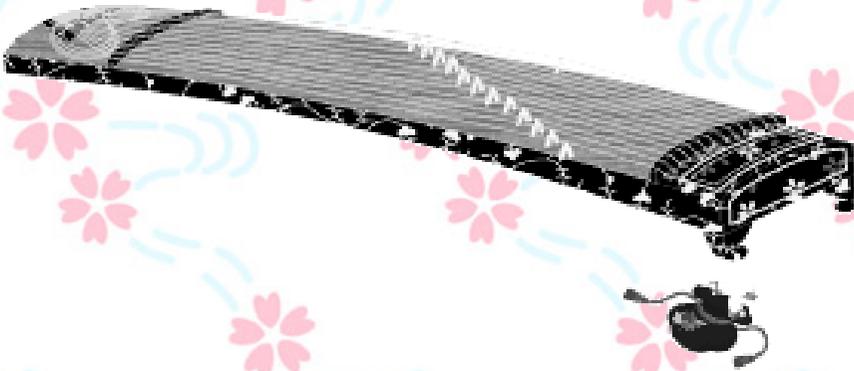


日本音楽部門 第36回発表会(県大会)

～ 箏 曲 ・ 能 楽 ～

曲目・演目紹介



(1) 箏四重奏曲(作曲 長沢勝俊) 名古屋市立菊里高等学校

この曲は、長沢勝俊の小編成曲の代表作の一つです。箏三面と十七絃による四重奏曲で、二つの楽章よりできており、一章は緩、二章は急という構成をとっています。強弱や緩急の変化をつけ、ダイナミックに、そして四パートのメロディーの移り変わりを楽しんでいただけるよう、精一杯演奏します。

(2) 上昇の彼方(作曲 沢井比河流) 愛知県立豊田東高等学校

この曲は、人が途方もない階段を一段ずつ登り続ける様子と、その先に広がる世界が描かれています。場面の移り変わりを、音の強弱と曲のテンポを意識して表現しています。人生の物語を想像しながらお聴きください。

(3) 鹿島立(作曲 杵屋正邦) 愛知県立江南高等学校

「鹿島立」は、めでたい旅立ち、門出を意味する言葉です。印象的なメロディーの繰り返しに、細かな音やパートの掛け合いが加わり、重層的で広がりのある曲となっています。強弱やテンポ感を大切に、そして曲自体がもつエネルギーを表現できるよう、練習を重ねました。箏、十七絃、三味線の3パートで奏でる力強い音のハーモニーを、どうぞお楽しみください。

(4) タンジェントアーク (作曲 江戸信吾) 愛知県立衣台高等学校

タンジェントアークとは、非常に珍しい逆さ虹のことです。目撃すると幸運が訪れるといわれています。そんな逆さ虹のイメージを、箏2面と十七弦の三重奏にした曲です。青い空のもと、霞みがかった白い雲のペールをまとった太陽の周りにかすかに煌めく七色の虹……そんな情景を思い浮かべていただけるよう演奏します。

(5) 大河 (作曲 牧野由多可) 愛知県立東海南高等学校

滴り落ちる水、穏やかな川のせせらぎ、岩にぶつかり舞い上がる霧のようなしぶき、渦巻く波のようなうねり、夕日の光を受けた宝石のようなきらめきなど自然とともに様々な表情を見せながら悠久の時を経て流れゆく大河を、曲全体に駆使された技巧で多彩に表現する曲です。それぞれのパートの掛け合いと一音一音を大切にしながら聴いて下さる皆様への感謝と大好きな箏への思いを込めて演奏します。どうぞお聴きください。

(6) 雪三態 (作曲 長沢勝俊) 愛知県立半田高等学校

「上見れば虫コ、中見れば綿コ、下見れば雪コ」という、東北地方で唄われているわらべ唄があります。この曲はそんなわらべ唄や、そこから広がる雪へのあこがれとロマンを基調として作曲されました。しんしんと降りつもる雪と、雪に包まれたどこか懐かしい風景を思いうかべながら演奏します。

(7) 三つのフェスタルバラード (作曲 三木稔) 愛知県立一宮西高等学校

「祭り」という言葉から想起されるモチーフは人それぞれです。屋台通りの賑やかさ、山車を引く人々の熱気、祭りの余韻漂う夜道。三つのフェスタルバラードには、そのどれもが表現されています。一つ一つの楽章で違った祭りの情景を想像しつつ、十八箏で表現する「祭り」をどうぞお楽しみください。

(8) ひまわり (作曲 筑紫歌都子) 修文女子高等学校

この曲は、さんさんと照りつける真夏の太陽のもとに咲くひまわりの逞しさを表した箏の二重奏曲で、照りつける太陽や行きかう夏雲の姿なども織り込んでいます。ソロの部分では、ひまわりの明るく元気なイメージとは対照的な、夜のひまわりの落ち着いた、内に秘めた力を表現できればと思います。

(9) 連なる (作曲 沢井忠夫) 菊華高等学校

「連なる」というタイトルは、箏に携わる人々がそれぞれに持っている箏音楽への強い愛情によって互いに手を取り合い、心を連ねてこの音楽の発展を願う姿勢から名付けられたものです。曲は3楽章に分かれており、曲中の転調が多いのも特徴の一つです。日頃から育んできた互いへの信頼と友情がこの曲で連なり、表現できるように精一杯演奏させていただきます。

(10) 箏と十七弦による 二重奏曲 (作曲 藤井凡大) 愛知県立豊田高等学校

この曲は、3楽章で編成され、箏と十七弦の音色の違いを活かし、また、時には似せたりしながらそれぞれの楽章を表現します。第1楽章は、ダイナミックな旋律とやわらかなロマンティックな部分が交互に現れます。第2楽章はゆったりした雰囲気、第3楽章は、速いテンポで、軽やかに演奏します。(演奏時間の都合で、途中カットしています。) 部員全員の気持ちを一つにして、心を込めて演奏したいと思います。

(11) 天泣 (作曲 橋本みぎわ) 藤ノ花女子高等学校

降り出した雨のような静かなトーンのスロパートから始まり、順々に各パートが重なりながら、最後に向かって美しく儂げに盛り上がっていきます。つらい出来事で流した涙、それを乗り越えた先にある強さと美しさが、雨上がりの虹に重ねられて描かれているような曲です。「空が嬉し泣きしているみたい」…そのようなイメージが伝わるように、精一杯演奏いたします。

(12) 上昇の彼方 (作曲 沢井比河流) 愛知県立鳴海高等学校

この曲は、第一楽章と第二楽章から構成されています。第一楽章では、音を重ねていきながら一步一步昇っていく喜びが、躍動感あふれるリズムから伝わってきます。第二楽章は、すり爪を使った3パートが織りなすハーモニーで始まり、一箏、二箏の掛け合いが続きます。皆で手を取り合って高みを目指す絆が感じられる曲です。私たちが作り上げてきた「上昇の彼方」を、どうぞお聴きください。

(13) 夢の輪 (作曲 沢井比河流) 光ヶ丘女子高等学校

1箏と2箏の8分音符の繰り返しからスタートするこの曲は、「現実」からやがて「夢」の世界へと誘われます。全体的に軽快なリズムで構成されており、それぞれの「夢」が続くような力強さを感じさせる曲です。一人ひとりが持つ「夢」に向かって駆け抜ける躍動感を表現し、明るい未来が築けるような演奏を心掛けたいと思います。

(14) さらし風手事 (作曲 宮城道雄) 安城学園高等学校

宮城道雄が1952年に作曲した、高音と低音の箏二重奏曲の最後の作品です。
“さらし”とは、染色した布を京都の宇治川の水で晒す際に、大勢で調子よく作業するとき生まれるリズムカルな音楽的な表現です。古典の手事物が原曲であり、宮城作品中、もっとも達人的性格を持つ曲とされており、整然とした古典的な旋律が美しく、緩急のメリハリのある聴き映えのする曲です。少人数ですが心を込めて演奏します。

(15) 岩船 (作者不詳) 名古屋市立名東高等学校

時の帝の命を受けて住吉に派遣された勅使は、一人の童子に出会います。童子は携えてきた銀盤に乗せた玉を帝への捧げ物として勅使に託し、天からの捧げ物を積んだ岩船が漕ぎ寄せてきたことを教えます。童子が自分の正体は天の探女であると告げて嵐と共に消え失せた後、海中から現れた龍神は天の探女と協力しつつ、波の鼓に拍子をそろえて岩船を引かせ、住吉の岸に岩船を着けて金銀珠玉を山のように積み上げます。こうして神の加護により、御代は千代に栄えます。祝賀の雰囲気満ちた、めでたく爽やかな能です。精一杯演じますのでどうぞご覧ください。

(16) 新・夢いろは詩 (作曲 武田佳泉) 愛知県立名古屋西高等学校

名古屋西高校津軽三味線部が演奏する「新・夢いろは詩」は創部者であり、現在プロの津軽三味線奏者として活躍されている武田佳泉(たけだかなみ)さんが高校生の時に作曲されたものです。私達は毎年この曲で全国大会に出場しています。そして、11月に開催されたびわ湖大会では見事優勝することができました。日頃の練習の成果が存分に発揮される曲なので、手の動きなどの細かいところにも注目して見てください。

本日は、私たちの発表会(県大会)にお越し下さいまして、ありがとうございました。

この発表会のために、私たち部員一同は日頃の練習の成果が発揮できるよう努力を重ねてまいりました。これからも伝統の音楽を楽しみながら、部活動に励んでゆきますので、変わらぬ御支援をお願いいたします。

